

第5回ひょうごスマートシティ推進検討会議事録

日時	2024年3月22日 10:00~11:00	場所	オンライン
----	------------------------	----	-------

アジェンダ	
10:00~10:10	第4回会議の振り返りと本日の議題 (兵庫県 企画部 情報政策課 木南課長)
10:10~10:45	兵庫県内のスマートシティのこれまでの総括と今後の取り組みの方向性 (兵庫県 赤澤情報戦略監)
10:45~11:00	今後の検討事項に関する意見交換

第4回会議の振り返りと本日の議題 (兵庫県 企画部 情報政策課 木南課長)	
■第4回会議の振り返り	
<ul style="list-style-type: none">・ 前回は広域連携をテーマに、三島市長と岩崎参事から講演をいただいた。・ 一つ目は2市2町による富士山南東スマートフロンティア推進協議会における若者の流出や地域公共交通の弱体化といった地域課題解決に向けた取り組み。・ 二つ目が伊豆ファン倶楽部の立ち上げに関する取り組み。ここではポイント事業を立ち上げ、会員の行動履歴を基盤に蓄積・分析しながら経済圏を作っていく取り組みを紹介いただき、マイナンバーカードの使い道の拡張など利便性向上に関する方針についてもお話しいただいた。・ 質疑応答では、伊豆ファン倶楽部事業では事業者側にもメリットのある取り組みを目指していく方針や、2市2町連携では医療・健康面の施策の充実を進めていく方針をお話しいただいた。・ 続いてのディスカッションパートでは、県内市町の広域連携の紹介も実施。・ 加古川市からはBLEタグによる見守りとワンコインセンサによる河川流域の監視の取り組みについて共有いただき、費用負担に関する住民市町への理解を得ることが重要であるとのコメントがあった。・ また、姫路市の取り組みとして、図書館の近隣市町における相互利用や、担当者による情報交換の場の運営について共有いただいた。こういった活動を通し、自治体単独でなく、周辺自治体で連携してコストダウンを図っていける姿を目指すことがポイントとのコメントがあった。・ 総括として南雲アドバイザーからもコメントをいただいた。日本のスマートシティは実装段階に入ってきているが、一方で自治体間の格差も広がっている点、これに対しては優良事例の横展開により取り組みを広げていくことが望ましい点、そのためには情報共有の場を活かしていくことが需要である点をお話しいただいた。	

■本日の議題

- ・来年度は本検討会を「ひょうご地域 DX 推進検討会」に改め、支援体制構築、人材育成、広域連携の推進を図る場としていく。
- ・今日は今年度最後の検討会。来年度の検討につなぐため、今年度の取り組みを総括し、兵庫県におけるスマートシティ、地域 DX の今後の方針を話し合う場にしたい。

兵庫県内のスマートシティのこれまでの総括と今後の取り組みの方向性 (兵庫県 赤澤情報戦略監)

■デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ）

- ・先日、デジタル田園都市国家構想推進交付金に関する説明会が実施されたが、県内の自治体も積極的に取り組んでいただいております、これまで 36 市町で対象事業への採択または申請実施という状況になっている。他のスキームも合わせると、ほとんどの自治体が DX に取り組んでいる状況まで来ている。
- ・分野別にみると、住民・行政サービスの手続き改善をスモールスタートで始めるケースが多い。次いで教育や防災分野が多い状況。

■地域 DX に関する国の方針

- ・一方で、今年度補正予算の交付金の方針には変化が見られ、データ連携基盤の統一化の方針をはじめ、単年度予算でシステムを作りこむフェーズから、使いこなす形へのシフトが見られる。これに対応する形で、データ連携基盤に関する県の共同利用ビジョン策定の要請も来ている。
- ・作りこみから使い込みへのシフトへの具体的な動きとしてはデジタル化横展開推進協議会の発足などが見られ、兵庫県としても参画して、積極的に場を活用していく。
- ・地方制度調査会の答申においては、デジタルの共有化を進めていく話のほか、県が市区町村の取り組みを支援する話が盛り込まれている。また、松本総務大臣の書簡においても県の役割として人材育成や市町との連携を期待されている。
- ・兵庫県としてもこれらの期待に応えていく必要があると認識している。

■兵庫県の取組（スマートシティモデル事業）

- ・令和 4 年度からスマートシティモデル事業を始めており、あわせて令和 5 年度はスマートシティチャレンジと推進検討会の 2 本柱で取り組みを進めてきた。
- ・スマートシティチャレンジではモデル 6 市および関係事業者と連携し、見守りや健康データ、広報 DX、イベント情報の共有などを推進。なかでも広報 DX と児童相談記録の DX については水平展開の可能性を感じており、特に後者は他自治体からの視察があったり、市で早速の導入が検討されたりするなど一定の手ごたえを得ている。一方で人材リソースの確保や原課の巻き込みといった面では課題がある。
- ・スマートシティ推進検討会においては神戸市と連携してスマートシティミートアップを開催するなどの活動を通し、スマートシティ推進のための条件を再認識した。

■今後の主な課題と取り組みの方向性

- ・成果としては、DXの取り組みが兵庫県内で広がってきている状況がある。企業と市町のマッチングのインフラができあがりつつある。
- ・一方で、原課をいかに巻き込むか、補助金頼りでない自立した事業の進め方といった観点では課題があり、取り組みの横展開における各市町の体制や課題感が微妙に異なる中で、のすり合わせ、連携基盤の技術的観点での構築・維持・運用の難易度の高さは継続して検討が必要な状況である。このような課題に対し、体制強化、人材育成の推進などを通して支援をしていく。
- ・具体的には、DX推進リエゾンの配置、地域DX出前講座、意見交換の場の設定などを通して支援していく。

■ひょうご地域DX推進検討会

- ・この検討会も「ひょうご地域DX推進検討会」として刷新し、全市町に声をかけ、今までスマートシティと呼んでいたところを、地域社会DXと自治体行政DXをあわせて地域DXと呼ぶ形に改め、この枠で取り組みを進めていく。
- ・具体的な取り組みとしては、「優れたサービスモデルの把握と横展開の可能性の見極め」「広域で取り組むことでメリットが出やすい分野・サービス」「データ連携基盤共同利用ビジョンの策定」を深掘りしていく。

■まとめ

- ・まとめとして、兵庫県内の地域DXはこの2年間で取り組みを加速し、ノウハウが溜まってきている。一方で新たに見えてきた課題があり、広域自治体としては基礎自治体の支援が重要なミッションになる。基礎自治体の興味関心に寄り添い、重点取組分野を設定のうえ議論を進めていく。

今後の検討事項に関する意見交換

(A市町)

- ・南雲アドバイザーの講演を聞き、スマートシティ事業においては、住民目線で取り組むことでウェルビーイングを高める観点が重要であることがようやく理解できた。
- ・一方、ビジネスモデル、持続性の確保の点ではまだノウハウが十分なく、コンソーシアムを組成したり、コンサルを入れたりしても、民間事業者に投げるだけでは何も返ってこない。
- ・交付金がなくなった後の持続可能性の確保は難しいというのが正直な実感。
- ・ここを補完するような成功事例、良質なモデルを紹介いただけるとありがたい。

(県)

- ・発注側と受注側の関係では、民間の知恵を引き出すのはなかなか難しく、非公式なコミュニケーションをいかに積み上げるか、というアプローチも考える必要がある。
- ・民間の持つポテンシャル、知見を引き出す取り組みを模索したい。

(B市町)

- ・方向性については賛同できる部分が多い。
- ・横展開とかビジネスモデルといったキーワードが出てくると抵抗感があるが、各市町が何を考え、何を課題に思っているのかを共有できるだけでも大きい。

(C市町)

- ・事例を紹介いただいているものの、なかなか次のステップに進んでいけない。
- ・いかに他自治体の事例を自分の自治体に落とし込んでいくかの段階で、予算を付けたら、原課の理解を得ていくのが難しい。

(D市町)

- ・正直こういった事例を見て、羨ましいと思うのが正直なところ。
- ・このような取り組みを進めたい思いは各職員持っているが、これを束ねて実現していくところが組織化できていない。
- ・個人的にはぜひともやっていきたい取り組みが多いが、予算的・組織的な事情でなかなか難しい。

(E市町)

- ・住民に関わる DX、利便性向上については既にサポートがある。
- ・一方、バックヤードの DX 化への支援についてはまだまだ検討の余地があると思う。
- ・Excel やノーコードツールを活用した現場の作業改善といった事例についても情報共有いただけるとありがたい。

(県)

- ・兵庫県内でもデジ Can マガジンという形で Tips の共有などやっており、そういった内容も共有していく。

(F市町)

- ・DX 化は義務ではない。各課からすると、他に義務としてやらなければいけないことがどれだけあるかという話でもある。
- ・DX 化により作業を減らせるところをいかに理解してもらうか、というのが庁内に存在する一つの壁。

(県)

- ・DX 推進は義務ではなく、今後の人口減少時代に備えていく、という文脈が強い。
- ・小さな成功体験を積み重ねることで実感を得てもらう活動が必要。

(G市町)

- ・DX は 1 市だけではどうなることでもない。情報共有が更に進むことを希望する。
- ・まずはやっていること、使ってみた感想などの共有で議論が進むことを期待する。

(県)

- ・話をしやすくする、顔の見える人間関係を作っていく取り組みも重要と理解した。
- ・CIO から実務者まで顔の見える関係構築を通して聞きやすい関係を作っていきたい。

(以上)